

山中さんちゆうの月つき
(藪孤山やぶこさん)

驚見東山又山 山南山北幾重山
山路盡行山不盡 山月出山又入山

驚おどろき 見みる 東山とうざん 山 又 山やま

解説 山登りに行き、その山があまりにも奥深いことに驚いて、
山中の月を素材に加えて、その驚きを詠じたもの。

山南さんなん 山北さんぼく 幾重いくちようの 山やま

語釈 ※東山||東方の山。※幾重の山||たくさん重なり合つた山。
※山路||山道。※山月||山の上に出る月。

山路さんろ 行ゆき 尽つくせども 山やま 尽つきず

通釈 東山の向こうに山また山が聳そびえているのを見て驚く。さらに
山の南側も、そして北側も幾重にも山が重なり合つて聳そびえている。
この山に登るため、山道を進んで行くと、山道は尽きてしま
うけれども、山は尽きることなく、まだ多くの山々が聳そびえている。
山で望む月はというと、山の端から出て、また山の端に沈んでい
く。本当に奥深い山である。

山月さんげつ 山やまより 出いでて 又また 山やまに 入いる